

花笠で笑顔をつなごう

山形大学花笠サークル四面楚歌

第19代会長 栗原瑞季 さん



みなさんは「四面楚歌」という言葉を聞いて、何が思い浮かびますか。ほとんどは「敵に囲まれ絶体絶命の状況」ではないでしょうか。しかし私たち山形大学花笠サークル四面楚歌は、「お客様」に周囲を囲んでいただき、一緒に盛り上がって

もらおうという意味に四字熟語を読み替え、日々汗だくになって練習に励んでおります。

そんな四面楚歌に私たち19代のメンバーが入ったのは2020年。コロナの影響を受け目まぐるしく社会の在り方が変動する中で、四面楚歌も数多くの活動の機会を失ってきました。見る側も踊る側も楽しめる花笠の魅力を伝えたいという思いと、さまざまな制限を受け思うように活動できない状況との間で葛藤する日々が続いています。

昨年12月に18代より引き継いでから、会長としての抱負を一つ掲げています。それは地域とのつながりを深めることです。コロナ禍の影響を受け人とのつながりが希薄になりつつある昨今、積極的に地域社会に働きかけることで、活気あふれるお祭りができる未来への希望を持ち続けることができると考えました。私たち四面

楚歌は花笠を踊ることで地域を活性化できると思っています。四面楚歌が演舞のご依頼を受けて活動していることを一般の方にも知っていただき、花笠を通して活力を受け取っていただきたいと考えています。

このような抱負を達成するために、コロナ禍においてサークル活動として取り組んでいきたいことがあります。

それは自ら花笠を発信することです。ご依頼の件数がコロナ禍以前と比べて激減している現在、自分自身で踊る機会を創出したり、オンラインで発信したりする必要があります。

昨年や一昨年は「四面楚歌演舞披露会」を周囲の企業・個人の皆様にご支援いただいて主催することができました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。このイベントでは、自分たちで演出を手掛けたことで、四面楚歌なりの切り口で花笠の魅力を発信する貴重な経験となりました。

また、SNSの活用も考えています。小白川・鶴岡・米沢の各キャンパスのメンバー総出で昨年作成した「名所de花笠」という動画は、「より多くの人に山形の名所や花笠の魅力をPRしたい」という思いから、四面楚歌のYouTubeチャンネルに投稿されています。山形の学生として、山形や花笠の持つ魅力を遠方の方にも知っていただき、いつか足を運んでいただききっかけとなるような動画を発信できないかと考えています。

このように、花笠踊りを通して、主体的に地域のPR活動や活性化に貢献したいという思いがあります。大学生のサークル活動としてできることには限りがあると思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、コロナ禍に四面楚歌の一員となった私たちだからこそできることがあると信じています。そしていつの日かコロナが収束したときには、できればマスク無しのまぶしいほどの笑顔で迫力ある華やかな花笠踊りをご披露し、周囲を大きな手拍子と声援、笑顔に包んでいただける四面楚歌、お客様と一緒に盛り上がっていただける四面楚歌でありたいと強く願っています。